

速さを求めて造られた自転車「リカベント」(1935年頃)



より速い自転車を作るためには空気の抵抗をいかに減らすかが重要となります。このためには人は寝そべるような姿勢で自転車に乗るとよいのです。この考えに基づいて造られた自転車をリカベントと呼んでいます。リカベントとは「横たわる」「もたれかかる」という意味です。サドルに背もたれが付き、足を前方に投げ出すような姿勢でペダルをこぐことで空気抵抗が減り、しかも長時間乗っても尻や腰が痛くなることもありません。

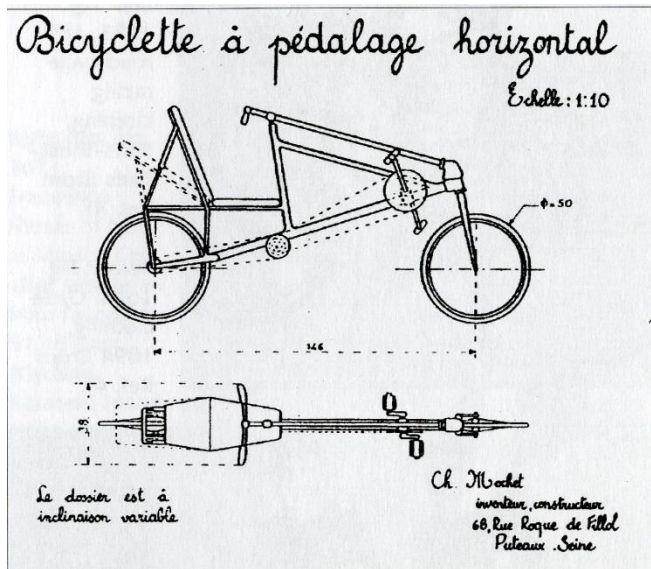
フランス人のシャルル・モシェは息子のために造ったペダル付の四輪車が他の子どもたちが乗っているどの自転車よりも速いことがわかりました。そこで大人のための二人乗りペダル付四輪車を「ベロカー」という名で1930年代初頭に販売を始めましたが、経済不況のため、自動車の代替としてよく売れました。しかし、四輪車は高速でのコーナーリングは危険で、カーブのたびにブレーキをかけ、再びペダルを激しくこぐという繰り返しでした。そこで二輪を造ったのがリカベント自転車の始まりともいわれています。

モシェは1933年に自分が考案したリカベントをレースに出場させました。スタート前は自転車の形や乗る姿勢を見て嘲笑していた多くの人たちはレース半ばにして一変しました。また1時間でどのくらいの距離を走れるかという記録にも挑戦し、26年ぶりに記録を塗り替える45kmという結果を出しました。こうしたことが問題となり、翌年規則が変えられリカベントは自転車レースに出場できなくなってしまいました。

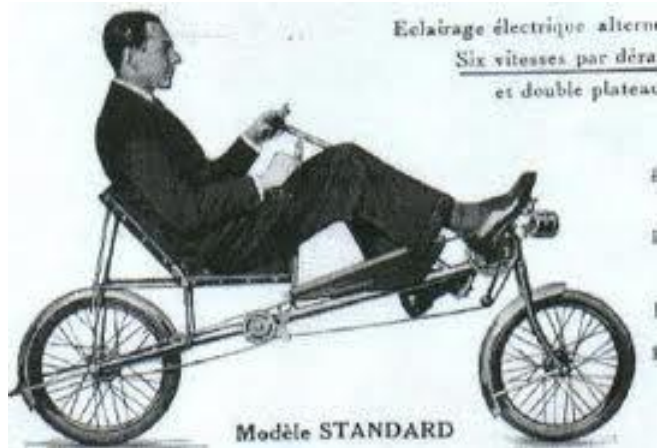


シャルル・モシェ (1880年～1934年)

フランス人。背もたれからの反発力が推進力に大きな効果があることを見出し、大人が利用するためのペダル付四輪車や二輪車を製作した。しかし、リカベントが自転車レース出場不可能という結果が出たのち、志半ばにして他界した。



1933年にシャルル・モシエが考案したリカベントの設計図で、背もたれの角度が調整できるようにになっている



自分が製作したリカベント自転車に乗るシャルル・モシエ



1933年のレースで初めてリカベントの自転車が出場し、優勝した